

# 大正大学名誉教授 佐藤良純先生ご案内

## ～ 釈尊八大聖地巡拝の旅～



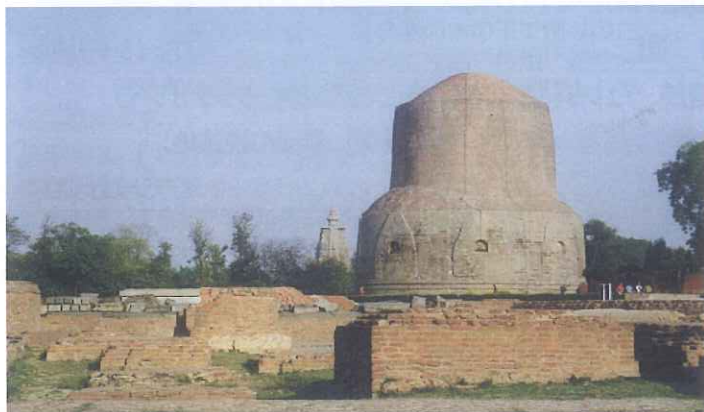
釈尊成道の地・ブツガヤ



釈尊生誕の地・ルンビニ

旅行期間: 平成 29 年 4 月 10 日(月)～21 日(金)【12日間】

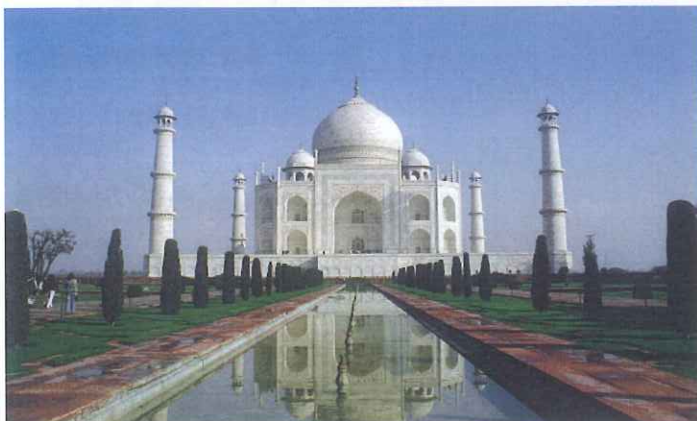
旅 費: ￥385,000- +TAX・燃油類別〔成田発・全食付・添乗員同行〕



釈尊初転法輪の地・サールナート



釈尊涅槃の地・クシナガラ



世界遺産タージマハール



霊鷲山

実施・主催・企画

株式会社 ビーエス観光

〒105-0004 東京都港区新橋 3-2-7 恭和ビル 2 階

TEL: 03-3502-4041 FAX: 03-3502-5416

(観光庁長官登録旅行業第 347 号/日本旅行業協会)

総合旅行業務取扱管理者: 花嶋政夫

旅行後援

公益財団法人国際仏教興隆協会

〒153-0061 東京都目黒区中目黒 5-24-53(祐天寺内)

TEL: 03-3711-7608 FAX: 03-3711-7673

日程表

【☒…朝食、㊦…昼食、㊧…夕食、☒…機内食】

	月日(曜)	都 市 名	時 刻	交通機関	摘 要
1	4 / 1 0 (月)	成 田 空 港 発 デ リ ー 着	11:35 18:20	JL-471 専 用 車	日本航空にて空路、インドの首都・デリーへ 着後、ホテルへ ☒ ㊦ ㊧ 《デリー泊》
2	4 / 1 1 (火)	デ リ ー 発 ベ ナ レ ス 着	午 前 午 前	国 内 線 専 用 車	空路、聖地ペナレスへ 着後、釈尊初転法輪の地・サルナト参拝(迎仏塔、ダメーク大塔、博物館) ☒ ㊦ ㊧ 《ペナレス泊》
3	4 / 1 2 (水)	ベ ナ レ ス 発 ブ ッ ダ ガ ヤ 着	午 前 午 後	専 用 車	聖なるガンジス河でのヒンズー教徒の沐浴風景を舟に乗って見学 釈尊成道の地・ブッタガヤへ 着後、ブッタガヤ参拝(大塔、金剛宝座) 日本寺にて大正大学名誉教授佐藤良純先生を囲んで勉強会 ☒ ㊦ ㊧ 《ブッタガヤ泊》
4	4 / 1 3 (木)	ブ ッ タ ガ ヤ 発 ラ ジ ギ ール 着	午 後 午 後	専 用 車	ブッタガヤ参拝(前正覚山、尼蓮禅河)と勉強会 昼食後、ラジギールへ 着後、参拝(ヒンビサーラ王の牢獄跡、竹林精舎跡) 霊鷲山にて日没法要 ☒ ㊦ ㊧ 《ラジギール泊》
5	4 / 1 4 (金)	ラ ジ ギ ール 発 パ ト ナ 着 ヴ ァ イ シ ャ リ 着	午 前 午 前 午 後	専 用 車	朝、第一結集の地・七葉窟参拝、玄奘三蔵が学んだナーランダ大学跡を見学し、パトナへ 仏舎利が展示されている博物館を特別見学 第2回の結集の地・ヴァイシャリへ 着後参拝(アショカ王柱、僧院跡等) ☒ ㊦ ㊧ 《ヴァイシャリ泊》
6	4 / 1 5 (土)	ヴ ァ イ シ ャ リ 発 ク シ ナ ガ ラ 着	午 前 午 後	専 用 車	クサリア遺跡、チエンダ村を見学し、釈迦涅槃の地・クシナガラへ 着後、参拝(涅槃堂、ラマバル塚[荼毘塚]、最後の説法地) ☒ ㊦ ㊧ 《クシナガラ泊》
7	4 / 1 6 (日)	ク シ ナ ガ ラ 発 ル ン ビ ニ 着	午 前 午 前	専 用 車	釈迦生誕の地・ネパール領ルンビニへ 仏舎利八分割の一つラーマグラーマ遺跡参拝 ルンビニ参拝(マヤ堂、アショカ王柱、僧院跡) ☒ ㊦ ㊧ 《ルンビニ泊》
8	4 / 1 7 (月)	ル ン ビ ニ 発 ピ プ ラ ワ 着 シ ュ ラ ヴ ァ ス テ イ 着	午 前 午 前 午 後	専 用 車	再びインド領へ ピプラワを見学しお釈迦様が最も多く滞在した祇園精舎跡のあるシュラヴァスティへ着後、参拝(僧院跡、スタツタ長者跡、等) ☒ ㊦ ㊧ 《シュラヴァスティ泊》
9	4 / 1 8 (火)	シ ュ ラ ヴ ァ ス テ イ 発 サ ン カ シ ャ 着	朝 午 後	専 用 車	釈尊三道宝階降下の伝承の地・サンカシャへ サンカシャ参拝(アショカ王柱、僧院跡) ☒ ㊦ ㊧ 《サンカシャ泊》
10	4 / 1 9 (水)	サ ン カ シ ャ 発 ア グ ラ 着	午 前 午 後	専 用 車	ムガル帝国の都があったアグラへ 着後、世界遺産タージマハールとアグラ城等見学 ☒ ㊦ ㊧ 《アグラ泊》
11	4 / 2 0 (木)	ア グ ラ 発 デ リ ー 着 デ リ ー 発	午 前 午 後 20:20	専 用 車 JL-472	再び、デリーへ 着後、デリー市内観光(国立博物館、インド門、ラージガード) 日本航空にて空路、帰国の途に ☒ ㊦ ☒ 《機中泊》
12	4 / 2 1 (金)	成 田 空 港 着	07:10		着後、入国・税関手続後、解散 ☒

※ 発着時間は全て現地時間です(インドは日本より3時間30分、ネパールは3時間15分遅れています)

※ 上記日程は、現地諸事情によりやむを得ず変更する事がございますので予めご了承下さい。

## 佐藤良純先生 プロフィール



浄土宗 中臺山医王院 光圓寺住職

1932年3月16日東京生まれ。1956年大正大学仏教学部宗教学科卒。1962-63年大正大学仏教学部助手。デリー大学に学び博士号取得、同大学客員研究員。1971年大正大学専任講師。72年助教授。88年教授。2000年大正大学人間学部教授。2002年定年退職、名誉教授。『たいせつな私たいせつなあなた お釈迦さまからのプレゼント』『ブッダガヤ大菩提寺新石器時代から現代まで』『ブッダの世界(共著)』など著書多数有

## 主なお釈迦様の遺跡

### ブダガヤ（釈尊成道の地）

悟りを求めて29歳でカピラ城を出家した釈尊は、ブダガヤ郊外の前正覚山で5年間の苦行を遂行されました。しかし、古代インドの宗教バラモン教修行者達が行う、苦行のための苦行では、正覚に達する事ができない事に釈尊は悟ります。ついには前正覚山を降りスジャータの村で娘から1杯の乳粥の供養を受け、尼蓮禪河を渡り、菩提樹の木の下で悟りのための瞑想に入られました。その7日後に成道の境地に達せられました。釈尊真の成道の地は大涅槃寺裏に金剛宝座として今日に残ります。

### ラジギール（マガダ国の首都）

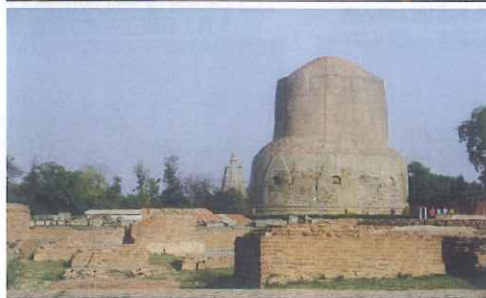
釈尊と同じ時代ラジギールにはマガダ国の首都“王舎城”がありました。マガダ国の王ビンピサーラは、お釈迦様に深く帰依され、布教活動の保護を行いました。ビンピサーラ王は、王子であるアジャセ王出生の秘密の発覚により、王子により牢獄に幽閉され殺害されました。その際、ビンピサーラ王の後イダイケ夫人にこの地で説かれたのが観無量寿経です。ラジギール五山のひとつ、ラトナギル峰の中腹に釈尊が冬の時期に逗留され、法華経など数多くの教えを説かれた霊場霊鷲山があります。三蔵法師天竺への旅の目的地ナーランダ大学跡は、ラジギールの郊外10キロに、壮大な遺構を留め今日に残ります。

### サールナート（初転法輪の地）

ブダガヤで正覚を得た釈迦は、しばらくの間その大いなる悟りの境地を人々に普及させるか否かで迷います。この問題解決のため1週間の断食に入り、説法伝承を決意されこの地で、最初の説法をされました。最初の説法を受けたのは、釈尊と厳しい修行生活をともにした5比丘でした。釈尊のあまりに光輝く姿に鹿までもが耳を傾けたことから、この地を“鹿野苑”ともいいます。サールナートは宗教都市ベナレスの郊外10キロに位置します。

### クシナガラ（釈尊涅槃の地）

サールナートでの初転法輪の後、お釈迦様はラジギールと祇園精舎を拠点にされて、仏法を世にお広めになりました。お釈迦様が自身の涅槃（死）を直感されたのは涅槃の3ヶ月前ラジギール滞在中の事です。故郷のカピラ城を目指し最後の遊行に出発されました。途中、クシナガラ近くでチュンダという鍛冶屋に食事の供養を受けたところ、突然激しい腹痛に見舞われ、同行のアーナンダに『2本の沙羅の木の間で頭を北にして床を敷いてほしい。私は疲れた、横になりたい』とお告げになられます。アーナンダは直ちに吉祥草を集め床を作りお釈迦様を休ませました。その後、『限りある時間を大切



にして修行に励め、法をよりどころにせよ……』と悟し、静かに別れを告げられました。その時、時ならぬ沙羅の大輪が咲いたと伝えられます。お釈迦様80歳の時でした。

お釈迦様涅槃の地クシナガラには、巨大な涅槃像が安置され、仏教徒の読経の聲が途切れる事のない大涅槃寺と、最後の説法の地、お釈迦様が荼毘に付された荼毘塚が、ひっそりとたたずまいの中にあります。

### ルンビニ（釈尊降誕の地）

お釈迦様は今からおよそ2,500年の昔、釈迦族の王子としてルンビニの地で降誕されました。ご誕生に際して、お釈迦様の母マヤ夫人は天上界の満月から降下してきた6本の牙をもつ白象が、右脇腹から胎内に入る夢を見てご懐妊になられたと伝えられます。その後、マヤ夫人は当時のインドの習慣により出産のための里帰りの途中、このルンビニの地で沐浴をされ、無憂樹に右手をられたとき、お釈迦様が誕生されました。幼少時代のお釈迦様は、

シッダルタと名づけられ何一つ不自由のない王子としての生活を送ります。19歳の時、スプラブッタの王女ヤショダラ姫と結婚されました。しかし、お釈迦様は宮廷内での華やかな生活に満足する事はなく、29歳の時愛馬カンタカにまたがり出家をされ、第2の人生をむかえる事となりました。今日のルンビニは世界遺産にも登録され、ルンビニ園にはマヤ夫人からお釈迦様がお生まれになるシーンのレリーフが納められるマヤ堂、アショカ王が仏教普及のため建立したアショカ王柱などが残ります。

